



祁答院の藺牟田池周辺

体や羽根のベッコウのような模様や色が特徴。環境省のレッドリストで絶滅危惧ⅠA類に分類され、保護の対象となっている。池西側のビオトープの辺りを舞っていて、撮影や観察に訪れる人も多い。

「ベッコウトンボを保護する会」によると、今年の初観察は3月26日で、前年より10日遅かった。最多の確認は4月17日の649匹。会員の前田広則さん（52）伊佐市川は「激減した年もあったが、最近には順調に羽化して安心して飼育。貴重なトンボをぜひ見に来てほしい」と話した。

蘭干田池沿いでは2024年6月の土砂崩れの影響で閉鎖されていたキャンプ場が、3日から暫定的に再開する。市によると、崩落部分に防護柵が設置されたため。周囲の復旧工事は続

キャンプ場きょう再開

薩摩川内市祁答院の蘭牟田池周辺で、今年も国内希少野生動植物種のベッコウトンボが飛び交う時季を迎えた。5月中旬をピークに、月末ごろまで見られそう。

利用は1人200円。予約不可。池入り口の生簾系保存資料施設「アクアタイム」で午前8時～午後4時半に受け付ける。池を周回する市道は一部で通行止めが続いている。アクアタイム00996(56)00085。

【調べてみよう】 身近な地域の絶滅危惧種について、調べよう。

絶滅危惧(ぜつ・めつ・き・ぐ) = いなくなる可能性が高くなっている生きものたちのこと 舞
(ま)う 撮影(さつ・えい) 訪(おとず)れる 確認(かく・にん) 匹(ひき) 激減(げき・
げん) = 急にはげしくへること 貴重(き・ちよう) 蘭牟田(い・む・た) 沿(ぞ)い 土砂
崩(ど・しゃ・くず)れ 影響(えい・きよう) 閉鎖(へい・さ) 暫定的(ざん・てい・てき) = し
ばらくの間、ひとまず決めておくこと 崩落(ほう・らく) = くずれ落ちること 柵(さく) 系
(けい) 保存(ほ・ぞん) 施設(し・せつ)

